

昭和30年4月～31年2月（統計係調）

(昭和30年中) 専売公社調査

(昭和30年中) 大阪国税局調査

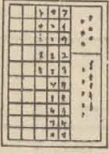
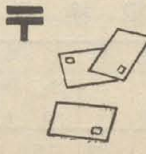
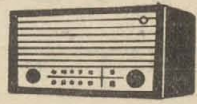
(昭和30年12月末現在) NHK調査

○普及率は昭和30年10月施行された国勢調査の世帯数(概数)を基準として算出。

○市内電柱 2,300本、配電線区長 90km ○定額電灯には街路灯を含み、従量電灯の小型機械にはラジオを含む。

○市内本管延長 31,711.28米 (31年2月現在)

(係調)
 月
 府
 128
 62
 210
 85
 97
 160
 150
 5
 15
 16
 15
 19
 7
 10
 25
 67
 46
 29
 82
 145
 144
 185
 160
 15
 81
 39
 90
 290
 68
 330
 460
 50
 490
 社調査
 計
 63,855
 局調査
 葡萄酒
 83
 K調査
 194
 30,400
 電力調査
 用電力
 (契約)
 496
 む。
 ス調査
 の他
 24戸

 市職員 201人に1人	 消防士 1,643人に1人	 警察官 865人に1人
 医療施設 1,446世帯に1カ所	 医師 1,615人に1人	 助産婦 2,203に1人
 電灯 1世帯に5灯	 ガス 1世帯1年 203.m³使用	 水道 1世帯1年 106.5m³使用
 電報 1世帯 発1.15件 1年 受2.67件	 郵便 1世帯 { 発 118通 1年 { 受 163通	 電話 13戸に1台
 新聞 1世帯に1.5部	 ラジオ 1.4世帯に1台	 テレビ 108.4世帯に1台
 タバコ 1世帯に1年 335個消費	 酒 1世帯1年 19.8升消費	 映画劇場 市内6館

10. 治 安・防 災

警 察

八尾警察署は明治10年堺県の警察出張所として八尾村大字八尾に設けられ、その後廃県の際八尾町大信寺7番地に移された。戦後、昭和22年12月警察制度の改革に伴い国警中河内地区警察署、八尾町警察署、竜華町警察署、久宝寺村警察署に分離管轄されたが、昭和23年八尾市の誕生と同時に八尾市警察署が創設され、29年7月警察法の改正により大阪府警察が誕生、旧中河内警察署の管内も管轄とする大阪府八尾警察署となつた。

交 通 事 故 原 因 調 表

(昭和30年度中)

原因別	区 分	自動車	原動機付自転車	自転車	軌道車	歩行者	その他	計
除安他斜追対優右路そ		2	1	—	—	—	—	3
行		3	3	4	—	—	—	10
全の横越及先左		—	—	2	—	8	—	10
車		—	—	3	—	3	—	6
面		5	—	—	—	—	—	5
先		2	1	2	—	1	2	8
路		1	—	—	—	—	—	1
そ		—	—	1	—	—	—	1
		—	—	—	—	1	—	1
		5	3	12	2	11	1	34
の計		18	8	24	2	24	3	79

遺 失 物 及 拾 得 物 件

(昭和30年中)

	遺 失	拾 得	処 分				保 管 中
			遺失者渡	拾得者渡	満期失効		
総 数	785	1,058	209	315	147		2,015
通 貨	370	340	129	105	—		—
物 品	121,367	242,706	1,057	121,664	2,500		232,503
	415	718	80	210	—		—
	874	1,427	1,098	995	343		2,037

刑 事 犯 検 挙 状 況

(昭和30年中)

検 挙 人 員	犯 罪 種 別	殺	殺人未遂	殺人予備	強盗		強盗未遂	建造物損壊	暴行	恐嚇	業務上過失傷害	傷害	窃盗		詐欺	横領	賭博	贓物関係	刑法上の 犯他	合 計	
		人	人	人	強	盗							欺	領							
					屋内	屋外															屋内
件 数 【 人 員	生 拳	1	3	0	1	4	5	0	1	22	16	81	56	382	301	49	19	1	4	33	979
	発 検	1	3	0	1	4	5	0	1	22	15	81	56	252	267	39	19	1	4	33	804
	男 女	1	3	0	1	4	7	0	1	15	11	84	61	69	36	17	16	6	4	24	363
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	4	0	1	0	7	25
		1	3	0	1	4	7	0	1	15	11	84	64	72	43	21	16	7	4	31	388

市 内 警 ら 連 絡 所

巡 査 派 出 所

(昭和31年4月1日現在)

所 名	住 所	所 名	住 所
八 国 鉄 八 尾 町 前 西	八 安 木 尾 中 本	近 山 鉄 八 尾 駅 前 前	西 山 郷 本
	434		596
	210		218
	264		

巡 査 駐 在 所

所 名	住 所	所 名	住 所
北 萱 久 太 竹 木 恩 高 八	山 宝 子 之 安 尾	本 振 寺 堂 淵 本 智 北 木	山 萱 久 太 竹 木 恩 大 八 尾
			本 振 寺 堂 淵 本 智 竹 木
			宝 子
			397
			1172
			2577
			230
			224
			387
			300
			776
			828
		西 久 植 龜 太 教 福 高	郡 口 松 井 田 寺 寺 南
		宝 寺	西 三 植 龜 太 教 福 服
		興 万 安	郡 津 松 井 田 寺 寺 川
			興 万 部
			1013
			89
			1264
			280
			1468
			299
			1481
			250



本 署

生により、八尾市外5カ町村消防組合八尾消防署と改称、同年11月消防組合は解散、2月1日市内一円を管轄区域とする八尾市消防署となり、25年8月6日大字安中に庁舎を新設移転し今日に至っている。

消 防

旧村当時は消防組（後警防団と改む）を組織してその業務に当たったが、昭和20年6月大阪府告示により特設消防署区域となり、布施消防署八尾独立消防中隊となつたが、21年3月八尾消防署として近鉄八尾駅前に開庁された。従来保安警察の一部門として、単に防禦消防のみ担当していたが、23年3月消防制度に画期的な改革が行われ、完全に警察部門から独立して防災行政を担当、市に移譲され、旧八尾消防署の管轄区域であつた八尾町外9カ町村は協議の結果、一部事務組合を組織して、八尾町外9カ町村の組合消防として発足した。その後23年4月市の誕

火 災 統 計

年 別	出火件数	損害額円	焼失坪数	死傷者
28年	29	15,924,885	561	傷者9
29年	19	9,559,385	234	傷者8 死者1
30年	28	20,189,995	125	傷者6 死傷1

月 別 火 災 統 計

(昭和30年中)

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
損害額	7,198,500	217	—	6,219,800	23,510	7,120	339,170	5,000	38,420	1,096,800	4,188,078	924,880	20,189,995
出火度数	4	1	—	3	1	1	2	2	2	2	3	7	28

消 防 自 動 車

(昭和31年4月1日現在)

項 目	購入年月日	年 式	会 社 名	馬 力	全 長	ポンプ型式	放水口量	タンク容量	配置場所
1 消防車	27年6月	1937年	フ オ ー ド	30	4.75m	二段式タービン	500	600	本 署
2 消防車	19年8月	2602年	ニ ツ サ	80	5.38m	同	500	同	同 同
3 消防車	28年7月	1953年	ニ ツ サ	95	4.00m	同	500	同	同 同
4 消防車	22年6月	1940年	ク ラ イ	25	4.40m	同	500	同	同 同
5 消防車	19年8月	2602年	ニ ツ サ	80	5.38m	同	500	同	山 本 署
6 消防車	9年8月	1934年	フ オ ー	24	4.65m	同	450	同	山 本 署
7 消防車	30年10月	1955年	ウ イ ル	60	3.70m	同	500	同	山 本 署
8 消防車	10年5月	1935年	フ オ ー	24	4.60m	同	450	同	山 本 署
9 消防車	25年11月	1950年	フ オ ー	24	3.68m	同	500	同	同 同
10 消防車	27年7月	1952年	新 京 東	10	1.00m	一段式タービン	150	同	山 本
11 消防車	28年2月	1953年	新 京 東	10	1.00m	同	150	同	山 本

消 防 水 利

(昭和31年4月1日現在)

種 別	公 設	私 設	消防用	地 下	溜 池	貯 水 槽	河川橋梁利用箇所
署所別	消 火 栓	消 火 栓	指定井戸	貯 水 槽			常時使用可 季節的使用可
本 山 本	365	20	37	8	12	8	4 19
出 張 所	64	18	34	0	26	1	5 5
計	429	38	71	8	38	9	5 24

消 防 団 員

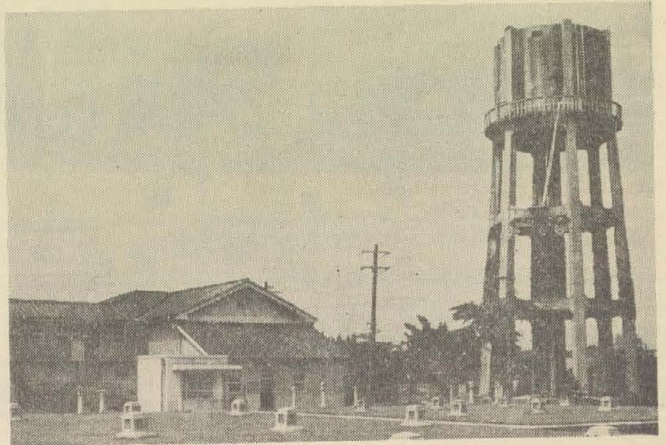
(昭和30年12月末現在)

分 団	總 数	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員
本 部	13	1	3	1	1	1	1	5
第一分団	12	—	—	1	1	1	2	7
第二分団	9	—	—	1	1	1	1	5
第三分団	17	—	—	1	1	3	3	9
第四分団	20	—	—	1	1	3	3	10
第五分団	15	—	—	1	—	0	5	8
第六分団	43	—	—	1	2	2	13	25
第七分団	30	—	—	1	1	0	7	21
第八分団	41	—	—	1	2	3	9	26

11. 水 道

上水道事業は市制発足前、八尾町及竜華町にそれぞれ昭和14年よりその施設を有し各戸給水を開始していた。また久宝寺村及び大正村などにも簡易水道の設備があり給水を行っていたが、市制発足当時、これらの施設は既に人口の増加と都市発展上から拡張の必要に迫られ、25年度より第1回拡張工事を行い八尾水源地に汚過池及び浄水池並にポンプ施設などの増備と共に、市内配水管の増設改良を実施し27年1月全工事を完了した。また、市内の各戸給水も進め、27年11月には久宝寺地区大谷水道区域も市上水道に切替え、全市人口の約60%に及ぶ給水の普及をみた。30年4月隣接3カ町村の合併により竣工直前の南高安町の簡易水道施設の引継ぎを受け、同年5月送水を開始し、その後配水管などの布設を行い現在約70%の給水状況であり、高安地区は本年に簡易水道を完成する予定である。(写真は八尾水源池)

なお30年度計画事業として恩智、東弓削、万願寺並に福万寺各地区に配水管の布設を行い送水したが、このほか工費600万円で高安簡易水道布設に着手し、水源池の深井戸及び送水ポンプ室を完成し配水管900余米の布設を実施、31年度は継続事業として800万円を計上実施中である。



水源の湧出能力

(昭和31年4月1日現在)

水源	区別	種類	1日湧出能力 m ³	計画給水人口
八尾水源池		鑿井	2,580	14,000
竜華水源池		同	1,720	9,500
南高安水源池		浅井戸	500	2,800
高安水源池		鑿井	735	4,900

給水戸数及栓数

(昭和31年4月1日現在)

計画 及現在	区分 種別	給 水 戸 数			給 水 栓 数							消火栓
		専用栓	共用栓	計	家事専用	家事共用	官庁団体	工業用	営業用	湯屋 営業用	計	
計 現	画在	13,300	1,328	14,080	12,605	300	115	145	400	35	13,600	440
		12,120	1,008	13,128	11,532	280	111	115	330	32	12,400	420

給水普及状況

(昭和31年4月1日現在)

区域内の戸数人口		給水戸数人口		普及率 %	栓別給水人口		
戸数	人口	戸数	人口		専用栓	共用栓	計
20,816	96,098	13,128	55,374	57	12,120	1,008	13,128

受水状況

(昭和31年4月1日現在)

総配水量	府より受水分			大阪市より受水分		
	量 m ³	金額	配水量の比 %	量 m ³	金額	配水量の比 %
3,566,705	1,700,260	12,376,200	49	104,791	856,863	3

電力使用状況

(昭和31年4月1日現在)

電力					電力料金 円	配水量 m ³	1 m ³ 当り 電力料金 円	1 m ³ 当り 電力消費 KW
竜水	華池	八水	尾池	南水				
407,827		603,718		43,813				
					—			
					1,055,358	4,483,561	3,566,705	1,256
								0.337

送配水管延長

(昭和31年4月1日現在)

口 径	鑄 鉄 管	鋼 管	エタニットパイプ	ビ ュ ー ム 管	計
400 mm	72m	—m	—m	—m	72m
350	897	—	—	—	897
300	746	—	—	—	746
250	2,457	878	—	—	3,335
200	7,055	3,393	—	—	10,448
150	11,445	3,921	—	312	15,678
125	2,848	4,102	—	1,368	8,318
100	12,013	4,806	1,011	230	18,060
75	8,950	8,631	2,450	1,229	21,260
計	46,483	25,731	3,461	3,139	78,814

料 金

(昭和31年4月1日現在)

栓	種	用	途	使 用 量 [1 カ 月 に つ き]			
				基本水量(m ³)	基本料金(円)	超過水量(m ³)	超過料金(円)
計 量	専 用	家 事 用	8	150	1	20	
		官 庁 及 団 体	16	300	1	20	
		工 業 用	8	160	1	21	
		営 業 用	8	160	1	21	
		湯 屋 用	200	2,800	1	16	
		官庁及団体(プール用)	800	11,000	1	15	
	栓	船 舶 用	—	—	—	—	
栓		臨 時 用	1 m ³ に つ き		2 6 円		
定 額	共用栓	家 事 用	4	70	1	20	
	専用栓	家 事 用	1 戸 に つ き 3 人 ま で	150	—	—	
	共用栓	家 事 用	—	—	—	—	

水 質 試 験 成 績 表 (昭和31年4月1日現在)

区 分	八尾水源地	竜華水源地	南高安水源地
独 度	1.0	2	1.5
P H 値	6.8	6.8	6.6
亜硝酸性窒素	検出せず	検出せず	検出せず
硝酸性窒素	微 量	微 量	痕 跡
アンモニア性窒素	微 量	微 量	痕 跡
アルカリ度	57	70	80
塩素イオン	9.98	9.98	20.00
過マンガン酸	3.52	4.62	4.12
カリウム消費量	0.1	0.1	0.1
鉄	0.1	0.15	0.15
残留塩素	0.1	0.15	0.15
一般細菌数 1cc	4	3	3
大腸菌群 1cc	(—)	(—)	(—)



12. 建

設

都 市 計 画

都市計画は昭和14年2月旧八尾町が都市計画法の適用を受け、23年4月5カ町村の合併により市制を施行するに及んで、漸次街路網が決定され、これと同時に公園緑地の計画決定をみた。26年には市内の人家密集地帯で水利の悪い場所5カ所を選定して防火水槽を設置、また都市災害復旧事業は26年から29年の4カ年にわたり、西郷、長瀬川、植松の各水路に実施された。30年4月東部隣接3カ町村及び河内市の一部を合併して区域を変更し本年3月この区域と南河内郡志紀町を併せて八尾市都市計画区域とした。

街 路 (昭和31年4月1日調査)

街路名称	起点	終点	巾員 (m)	延長 (m)	事業執行 年度	執行額 (円)
西郷植松線	西郷	安中	151	1,438.5	29.30	5,105,000
弥刀上ノ島線	佐堂	上ノ島	8~11	3,320	29.30	6,630,000
加美久宝寺線	久宝寺	市界	111	1,494.5	29	6,520,000

用途別地域 (昭和31年4月1日現在)

区分	計	住居	商業	準工業	工業	防火	準防火
面積 (ha)	1,363.6	1,068.6	44.7	180.5	69.8	—	—
百分率	100	78.4	3.3	13.2	5.1	—	—



児童公園 (福祉法によるもの)

(昭和31年4月1日調査)

名称	面積 (坪)	位置	竣工 年月日
慈願寺	216	八尾	28. 2
大信寺	160	同	28. 2
顕証寺	840	久宝寺	29. 3
常光寺	425	西郷	30. 3
長柄神社跡	272	庄ノ内	30. 3
北山本	262	山本	30. 3
淡川神社	317	植松	28.11

公

園 (都市計画法によるもの) (昭和31年4月1日調査)

名称	計画決定面積 (ha)	事業決定面積 (ha)	事業済み面積 (ha)	事業費 (円)
西郷児童公園	1.32	1.32	0.59	350,000
山本児童公園	0.35	0.35	0.35	352,488
竜華児童公園	0.61	0.61	0.40	334,000
安中公園	2.80	0.17	0.17	1,050,146
穴太児童公園	1.70	—	—	—
跡部児童公園	0.63	0.38	0.38	724,241
植松児童公園	0.17	0.17	0.17	600,000
恩智城趾児童公園	0.53	0.53	0.53	500,000
將軍寺児童公園	0.46	—	—	—

住

宅

昭和26年度に第一種公営住宅20戸、第二種公営住宅10戸建設し、引続き27、28、30各年に第一種公営住宅各20戸を建設した。なお、この外に引揚者住宅10戸を建設した。

公 営 住 宅 (昭和31年4月1日現在)

種 別	総 戸 数	経 過 年	
		5 年未満	5~10年未満
市 営	100	90	10
府 営	713	339	374
府住宅協会	128	128	—



失対事業による川浚え

失対事業資材費用

(昭和31年4月1日調査)

購入期間 種別	28年度 4/4半期	29年度				30年度			計
		4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	4/4	
道路	587,305	400,387	384,030	348,440	796,616	331,862	302,064	220,046	3,370,750
排水路	522,240	402,370	346,145	430,918	435,330	428,425	427,250	225,460	3,218,138
街路	438,545	120,590	96,285	92,098	69,139	88,475	135,326	131,960	1,172,418
公共空地	163,955	57,770	58,190	64,022	48,383	26,718	22,260	35,610	481,908
環境衛生	98,500	—	—	—	—	12,000	12,000	16,500	139,000
農業施設	—	61,175	58,714	55,513	46,663	66,196	66,060	70,744	425,065
計	1,855,455	1,042,292	943,364	990,991	1,596,131	955,676	964,960	700,320	8,807,279

30年度工事経費

(昭和31年4月1日現在)

種目	件数	総額	種目	件数	総額
庁舎	14	1,524,071	診療所	1	16,460
住宅	9	5,559,380	道路	5	1,997,460
病院	2	151,415	街路	21	12,203,875
消防	7	729,488	公園	8	355,993
学校	73	41,539,984	排水路	4	1,394,041
福祉	3	107,000	橋梁	3	103,660
出張所	2	18,750	共同便所	2	70,000
公民館	1	61,500	計		65,833,077

建設事業

(昭和31年4月1日調査)

区分	既設事業延坪数又は延長	新規事業	本年度事業総所要経費	備考
道路	144,285.3 (m)	1,785 (m)	19,419,000	西郷植松線、弥刀上之島線、加美久宝寺線、東高安八尾座線、電華72号線
公園	8,680 (坪)	2,400 (坪)	800,000	恩智、常光寺、長柄神社、北山本
橋梁	137 (カ所)	—	—	
排水路及河川	656.4 (m)	315.5 (m)	1,300,000	

道 路



写真は東高安—恩智線の失対事業による工事

昭和23年4月八尾町外4カ町村外合併、市制施行して以来道路側及び路面を改良、26年9月には市域内の道路を更めて路線の認定をした。30年4月隣接町村合併後市道の総延長は188,765米、（舗装道路は910米）で、橋梁総数は137.2の内木橋は25である。

道 路 延 長 (昭和31年4月1日調査)

所 管	道路実延長 (m)	市 費 ・ 路 面 別 内 訳						
		区 分	改 良 済			未 改 良		
			市費7.5以上	5.5 以上	4.5 以上	4.5 以上	3.6 以上	3.6 未満
国 道	2,754.3	延 長 (高級舗装)	2,754.3 (2,754.3)	— —	— —	— —	— —	— —
府 道	38,811.8	延 長 (高級舗装) (簡易舗装)	19,614.5 (6,537.7) (1,819.9)	5,836.1 —	— —	7,186.5 —	1,695.0 —	479.0 —
市 道	188,765.4	延 長 (高級舗装) (簡易舗装)	1,107.5 (267.5)	4,370.8 (25.8) (260.0)	3,309.8 (69.6)	3,522.3 (14.2)	13,975.5 (109.4) (4.5)	162,479.5 (50.3) (108.4)

橋 梁 数 (昭和31年4月1日現在)

所 管	総 数	構 造 別		
		コンクリート橋	銅 橋	木 橋
国	3	3	—	—
府	35	34	1	—
市	137	108	4	25
計	175	145	5	25

13. 運 輸 通 信

市内の交通機関として国鉄関西本線、近畿日本鉄道大阪線の外、大阪市バス、近鉄バスがある。国鉄関西本線は市の南部を東西に走り、八尾駅と、敷地12,000坪を有する竜華操車場があり、同線の交通保安並びに運輸の円滑化に当っている。市の北部には近畿日本鉄道大阪線が、市内に7駅を有し、そのうち準急停車駅3駅を持つている。国鉄八尾駅が市の裏玄関とすれば、近鉄八尾駅は市の表玄関に当り、この表玄関を起点として近鉄バス、大阪市バスが市内を縦横に走り、大阪、南河内、北河内を結んでいる。

道路は北部を東西に走る国道25号線（市内の延長2・7 軒）を始め、府道（市内の延長3・4軒）市道（延長188.7軒）があり、人口の増加を住宅の誘致と相まつて道路も逐次整備され、「国鉄バス」の吹田―八尾間、「近鉄バス」の今里―八尾間及び市内環状路線、大阪市バスの乗入路線増設が近く実現されんとしている。

市内各駅乗降人員と手小荷物取扱数

(昭和30年中)

駅 区 分	乗 降 人 員	手 小 荷 物		
		到 着	発 送	計
国鉄 八 尾	4,150,225	45,290	153,683	198,973
近鉄 久 宝 寺 口	2,548,416	20	3	23
八 尾	6,981,728	1,143	652	1,785
山 本	3,699,320	1,061	2,273	3,334
高 安	1,456,620	118	120	238
恩 智	1,091,924	757	134	891
服 部 川	669,440	14	134	148
東 高 安	835,946	462	71	533
計	21,433,619	48,865	157,070	205,925

竜 華 操 車 場

貨 物 発 着 取 扱 数 (昭和30年中)

操車場の開設は昭和13年10月1日、敷地60,678坪、場内の建物160棟（4,057坪）、場内のレールの延長39軒の規模で、1日約1,500両の列車編成を行つている。昭和27年9月1日には国鉄阪和線の杉本町と竜華操車場との間に貨物線が開通し、和歌山方面への輸送が非常に便利になつた。当操車場内には機関区、客貨車区があり、客車、貨車の操車、検車を行い、東京をはじめ、稲沢、吹田など各方面へ列車を送つている。

種 別	発 送 貨 物			到 着 貨 物		
	小口扱 件 数	車 扱 件 数	屯 数	小口扱 件 数	車 扱 件 数	屯 数
計	33,157	1,475	22,811	20,555	4,730	68,713

近 鉄 高 安 工 場

昭和5年5月、近鉄の前身である大軌、参急両社の車両修繕工場として建設され、引続き近鉄全線の修理工場として増築され、27年6月からは大阪線専用工場となつた。当工場の敷地は7,750坪、建坪3,205坪で従業員約300名が解体検査、修理並びに調査研究に当つている。

(保守担当車両数)

型 式	電動客車	制御客車	附随客車	電 動 貨 車		附随貨車	合 計
				有 蓋	無 蓋		
車 両 数	120	30	27	5	6	8	196

郵便局

明治5年7月1日に開設し、明治18年10月1日河内国若江郡寺内村に移転、その後4回にわたって局舎は移転された。この間明治30年3月26日八尾郵便局と改称、昭和12年11月11日2等局となり、24年6月1日2省分離によって郵政省として発足した。現在の局舎は28年7月20日に移転したもので鉄筋コンクリート2階建て（285.6坪）である。

(取扱数)

(昭和30年中)

区分	普通通常		書留通常		普通速達		小包	
	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達
総別	2,435,783	3,337,707	34,438	63,177	14,443	36,079	19,079	38,002

電報・電話局

明治5年7月1日に八尾郵便局として開局したが、電報電話局の前身である。同局で電信業務が行われたのは明治30年3月26日、電話通話の開始が同39年11月、これより2年後に電話の交換が始められ、昭和24年6月1日から八尾電報電話局として発足した。現在の局舎は木造2階建て6級局であるが、鉄筋コンクリート2階建ての新局舎が市役所南側に建設中であり、これが完成すれば現在の恩智、千塚の両局を併合して5級局となる。

(加入者)

(昭和30年中)

種別	公衆電話取扱局	公衆電話数	電報加入者数	加入申込数
数量	5	12	1,121	687

(通話数)

(昭和30年中)

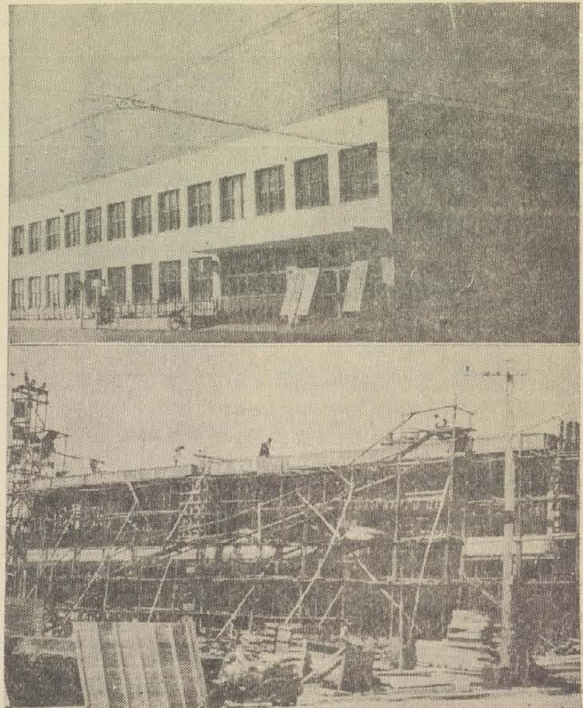
種別	電話機数	市内通話 呼数 (1ヵ月)	市外通話 呼数 1日平均	同1日平均	
数量	1,580	24,660	8,220	62,928	2,029

(電話取扱状況)

(昭和30年中)

区 分	年 間	月 平 均	1 日 平 均		
			平 常 日	休 日	
総 数	84,722	6,802	252	166	
発信	国内	24,164	1,942	71	51
	国際	119	15	1	0
着信	国内	56,172	4,490	168	113
	国際	126	10	1	0
中継信	国内	4,141	345	11	2
	国際	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	

上は郵便局、下は工事中の電報電話局



市内バス路線

大阪市バス

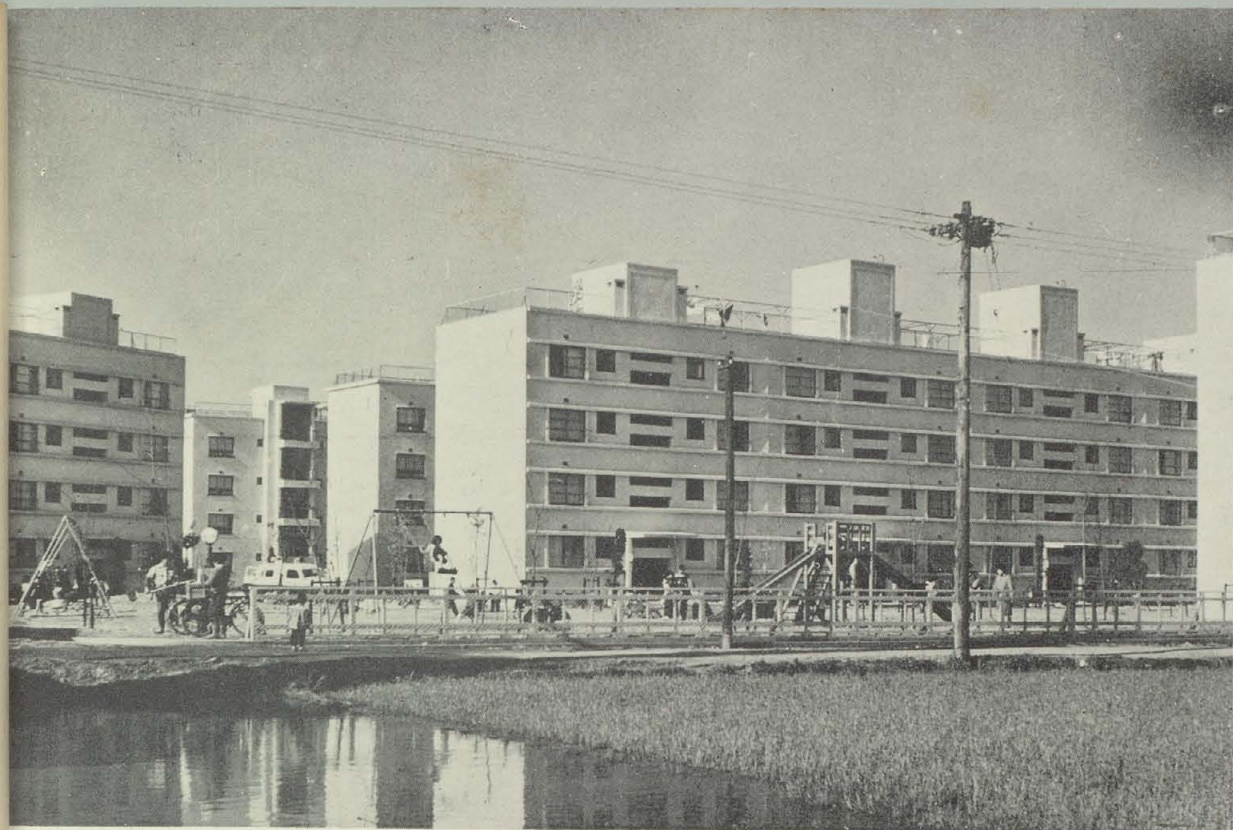
(昭和31年4月1日現在)

起点	終点	初発	終発	経路
近鉄八尾駅	アベノ橋	6時25分	21時15分	八尾駅—八尾市役所前—八尾郵便局前—八尾高校前—久宝寺—東神武橋—アベノ橋に至る

近鉄バス

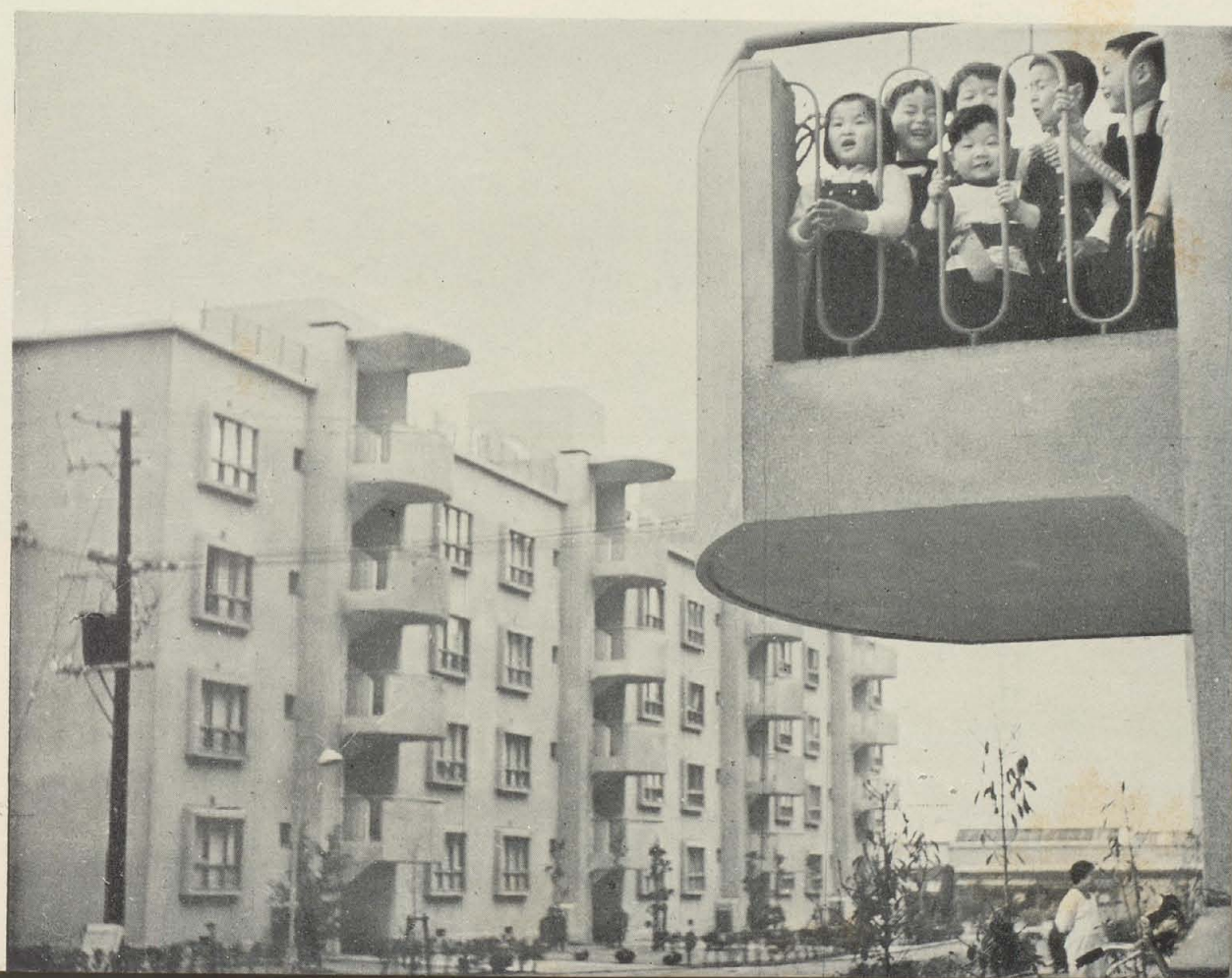
起点	終点	初発	終発	経路
近鉄八尾駅	藤井寺	6時50分	20時35分	八尾駅—八尾市役所前—表町—水源前—光南町—国鉄八尾駅—植松—太子堂—北木—木ノ本—大正住宅前—若林口—太田—大正橋—藤井寺
近鉄八尾駅	住道萱島	6時45分	21時00分	八尾駅—萱振新町(八尾中前)—萱振南—萱振北—西郡—若江—萱島
近鉄八尾駅	花園	7時00分	20時20分	八尾駅—八尾市役所前—庄ノ内小阪合住宅前—五月橋—山本駅前—美好橋前—山本高校前—大和橋—仲町—花園
近鉄恩智駅	瓢箪山	7時00分	19時00分	恩智駅—尺玉森—神社前—高安小学校前—垣内—教興寺—郡川—服部川—水越—大竹—水谷—瓢箪山

住宅



八尾住宅

小阪合住宅





全国初の民間航空基地八尾空港の滑走路

(毎日新聞社提供)

八尾空港

空港まつり (5月26日)





神社

——写真説明——

玉祖神社 左上

教興寺 左下

恩智神社 右下

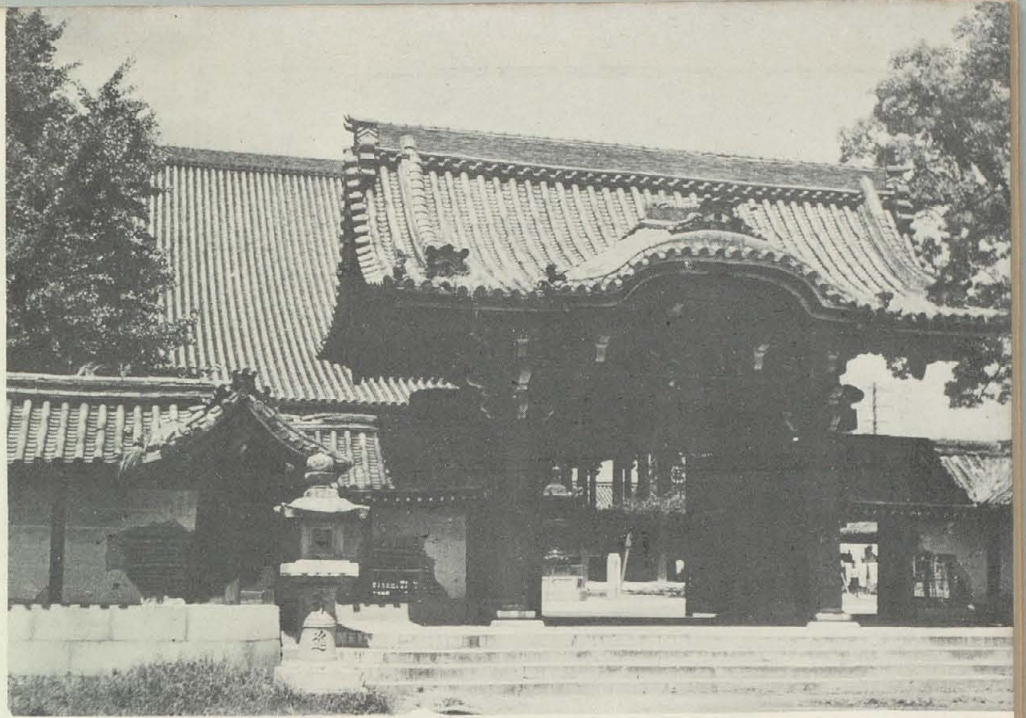
久
常
お
地

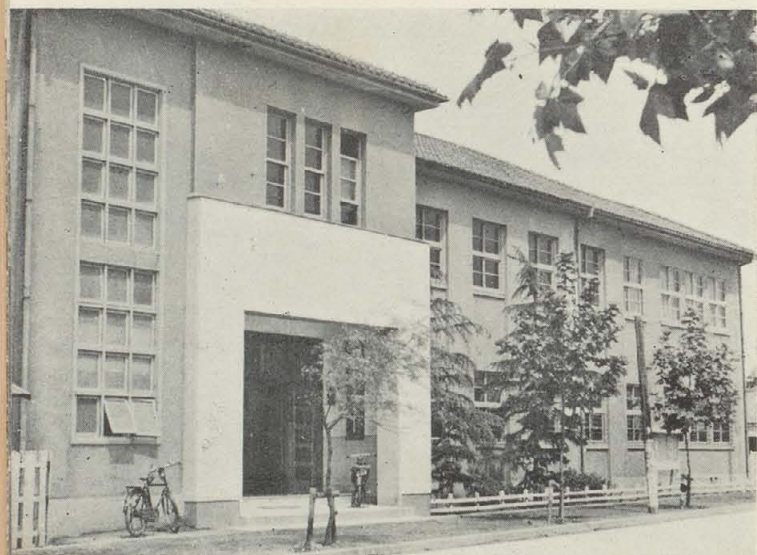
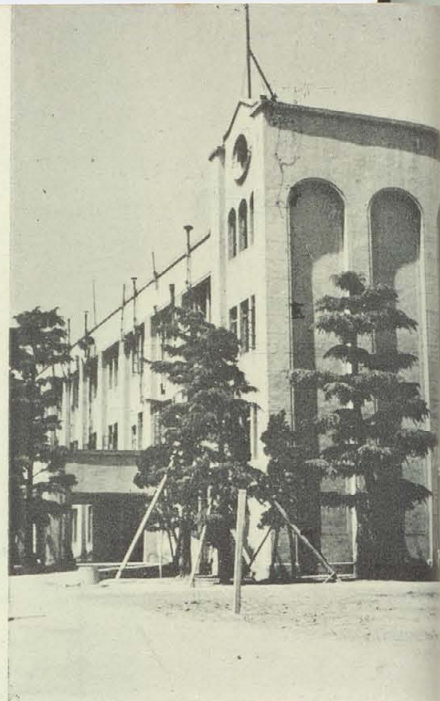
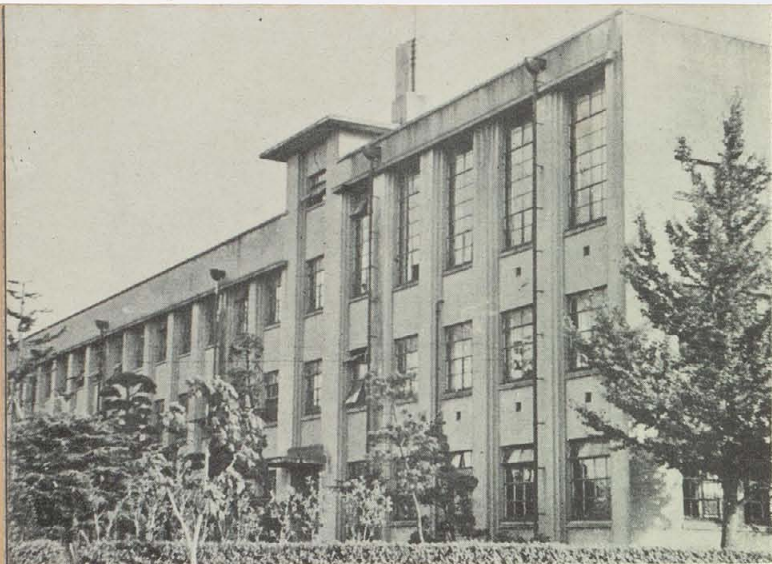


仙 園

——写真説明——

久寺宝御坊 右上
常 光 寺 右下
お 逮 夜 市 左上
地 蔵 盆 踊 左下





施設

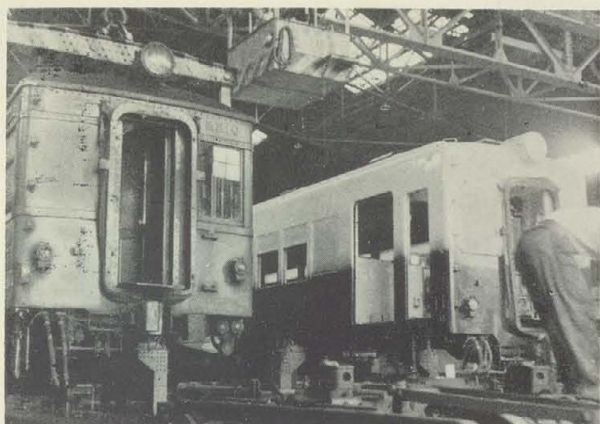
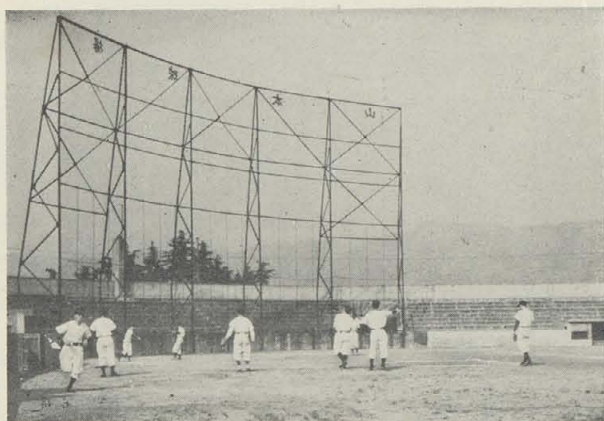
写真説明

—左 頁—

八尾高等学校	左 上
山本高等学校	右 上
八尾税務署	左 中
竜華小学校	左 下

—右 頁—

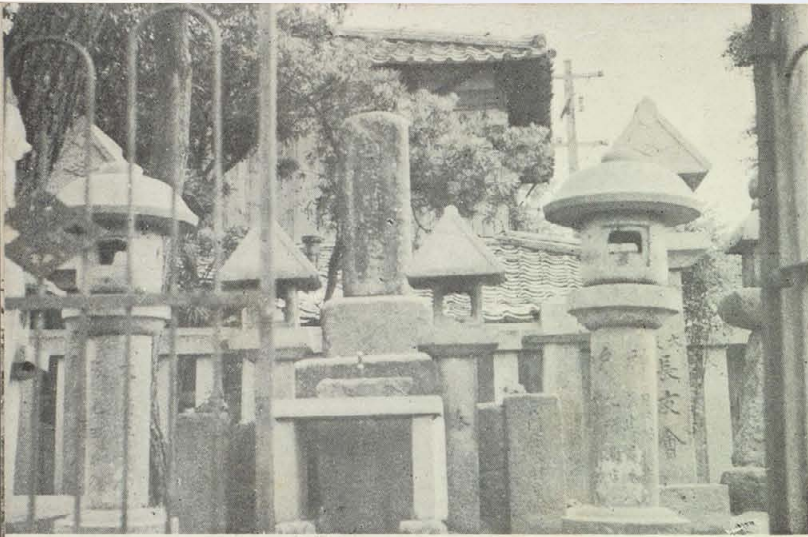
近鉄八尾駅	左 上
近鉄高安工場	左 下
山本球場	右 上
国道25号線	右 下
竜華操車場	下



史跡

写真説明

木村重成の墓	左上
十一面観音立像	右下
ギリシタンの墓	左中
恩智城趾	左下



八尾市全図

和田歳一画伯

八尾別院又は八尾御坊と呼ばれ真宗大谷派の別院である。開基は本願寺第12世教如で徳川家康の護持によつて慶